

66号で、5年生が給食の準備を早くすることに取り組んでいることを紹介した。その成果を、全校集会で発表した。毎日の時間の変遷を折れ線グラフに示し、少しずつ早くなっていることを全校に説明した▼3・4年生にはそれが刺激になった。毎日のように5年生の給食の準備を「視察」にくるらしい。4年生は、5年生の委員会活動にも「見学」に来ている▼阿下喜小学校の3学期のテーマは「最後まで現学級をやり切る」6年生は通学班の班長を卒業式の前日まで務める。5年生は委員会活動を4年生に渡さない▼子どもの限界を決めない、子どもを伸ばせるだけ伸ばしたい。先生方の気持ちに呼応するかのように子どもの「やってみたい」が新しい活動を生み出す▼児童会主催の「全校かくれんぼ」は昨年度に引き続きではあるが、「やりたい」という6年生の気持ちが、行事をつなげる▼2年生は阿下喜では久しぶり「校内郵便局」がオープンし、1年生は、「段ボール迷路」がそろそろオープンする▼毎年、新しい活動は生まれない。われわれ大人からすれば真新しさはないかもしれない。しかし子どもは違う。去年していたことを、今度は自分たちが「やりたい」と言う。活動は、子どもたちがつなげていくのだ▼前年踏襲ではない。「次はわたしたちの番」という意欲で始まる「新しい活動」なのだ。子どもたちの意欲のタネ、花咲くことは疑わず。